

(様式1)

平成30年度 学生の自主的活動プロジェクト企画書

申請者	氏名	吉原絹子
	学籍番号	
	学部・研究科名, 学年	

プロジェクトの名称	病院からはじまるまちづくりプロジェクト	申請金額
		198,800円
プロジェクト団体名	SHIPS (SHImane Public health Students)	
目的・理由	本研究は、低所得者層や一人暮らしの高齢者が必要なときに必要な医療を受けられない、という社会問題に着目し、①社会的困難に直面している患者における医療利用上の困難の実態把握、要因・背景究明、②医療アクセス面でのハイリスクグループの類型化モデルの作成、③病院内での多職種連携および早期介入支援システムの開発、④病院と地域が連携した支援ネットワークの構築、の4本柱で取り組んでいる。本研究を通して、病気になっても安心して暮らせるまちづくりに貢献できると同時に、学生のうちに社会医学に関する研究ができるため、今後のキャリアに生かせる貴重な経験とする。	
活動概要	松江生協病院に救急搬送された患者および入院患者に対して、インタビュー調査、アンケート調査、計量分析の3つのアプローチをとり、それぞれの研究成果を統合することで、医療利用上の困難の実態およびその関連要因を総合的に把握する。さらに、ハイリスクグループに対する病院内の早期介入および地域との連携体制・システムについて実証的な検討を行う。	
主な連携先 (予定を含む。)	松江生協病院・島根大学法文学部	
連携する内容	職員方によるアンケート調査、評価分析、研究・アンケート項目助言	
アドバイザー教員	所属部署	氏名
	島根大学法文学部	宮本恭子教授
期待される効果	貧困・生活困難と疾病により社会排除に直面している患者の医療利用上の困難の実態の全体像を描き出すことができる。また、地域の実状に応じた包摂的な医療について、医療現場、地域社会の実践的・制度的課題を明らかにすることができる。さらに、病院からはじまる地域と連携した支援ネットワークをどう構築するかについて、一定の知見を提供することは、社会的意義が大きい。	
成果の公表方法	報告書を作成し、病院職員や学生に対して、アンケート結果の成果報告を行う。また、地域と連携した支援ネットワーク構築のために、各地方自治体や町内会に報告書を送る。	

- ※ 1) これまでに関連する取組みや実績が紹介された記事など、参考となる資料があれば添付すること。
2) 備品等はカタログ、見積書を添付すること。

アドバイザー教員印	申請者印

病院からはじまるまちづくりプロジェクト

SHIPS

- 吉原 絹子
- 堀西 祐多
- 大屋 聡
- 小内 ゆい
- 梶間 了
- 中嶋 史音
- 神谷 龍輝

目次

- 研究のきっかけ
- アンケート実施について
- アンケート結果・考察
- 対策・課題
- まとめ

研究のきっかけ

松江生協病院の先生のお話で・・・

病院に行けず、玄関に「助けて」との張り紙

→病院に行けない理由は？

医師や病院・地域はどう介入できるか？

アンケート実施について

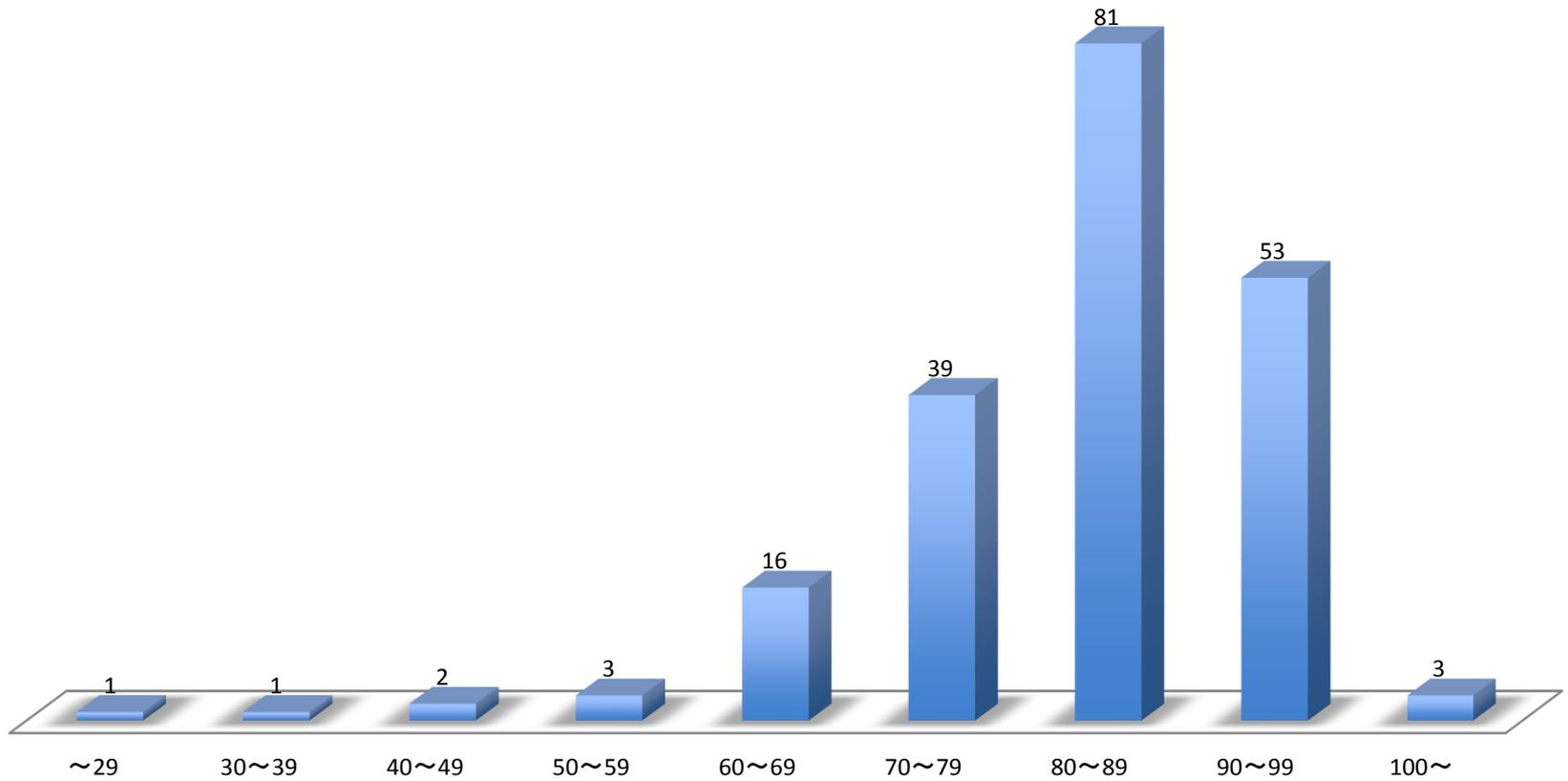
- 救急搬送から入院となった患者
- 3, 4月、6, 7月にアンケート実施
- アンケート用紙 A4サイズ1枚
 - 救急要請を我慢していたか
 - かかりつけ医があるか
 - 健診受診の有無
 - 患者本人の情報

アンケート集計結果

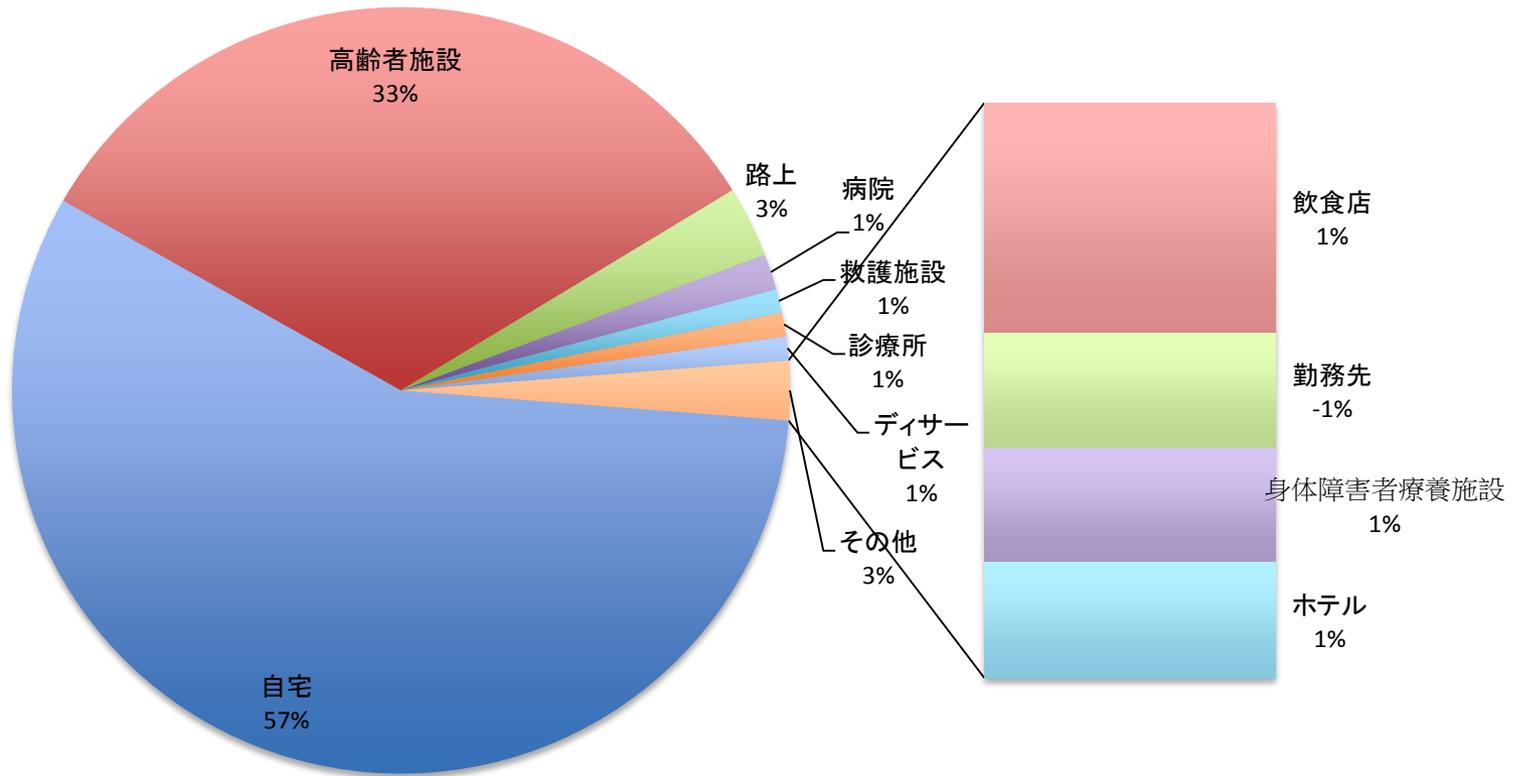
- 救急搬送から入院となった総数 199名
(3月 50名 4月 42名 6月 49名 7月 58名)
- アンケート回収 54名 未回収 145名

全体

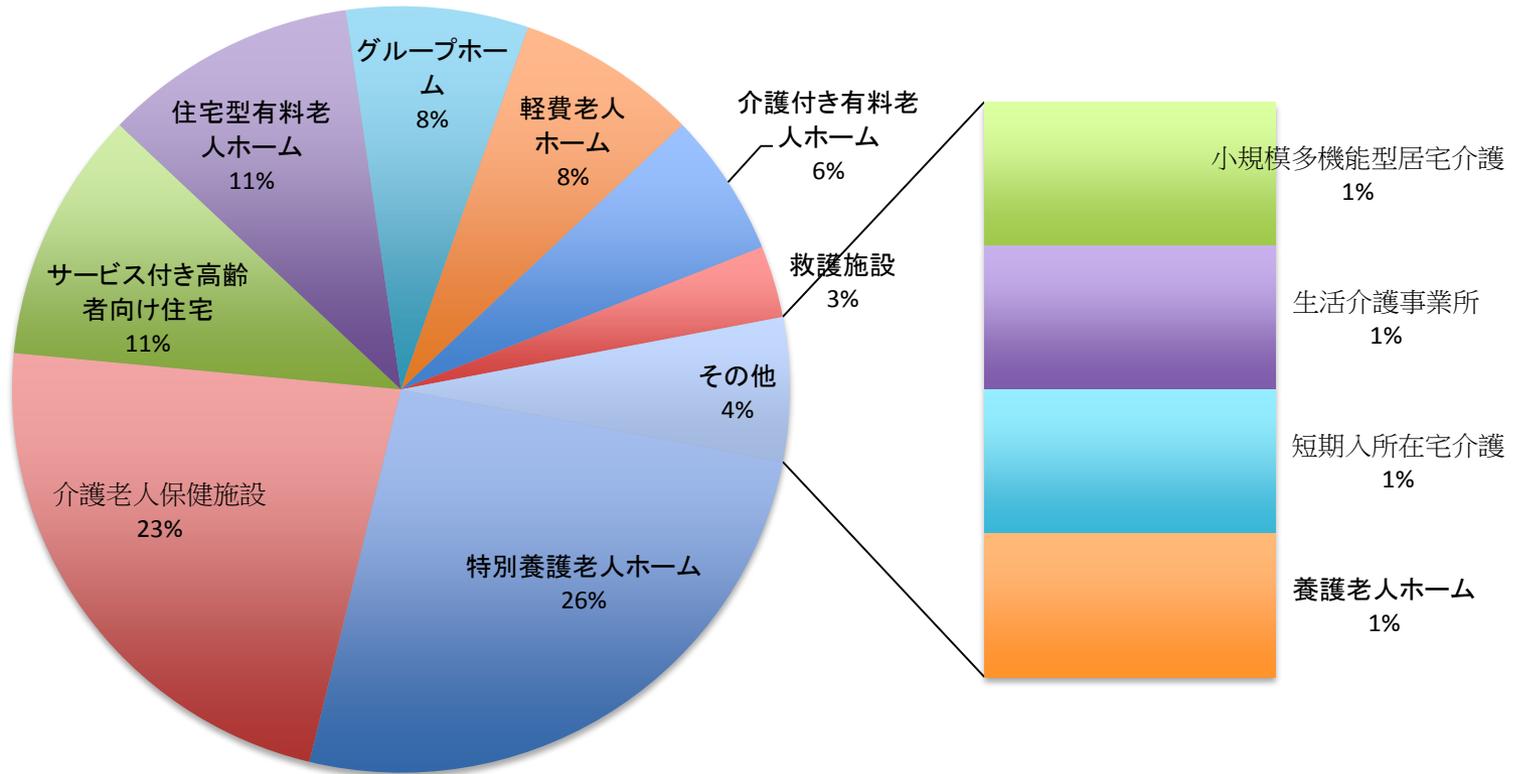
年齡分布



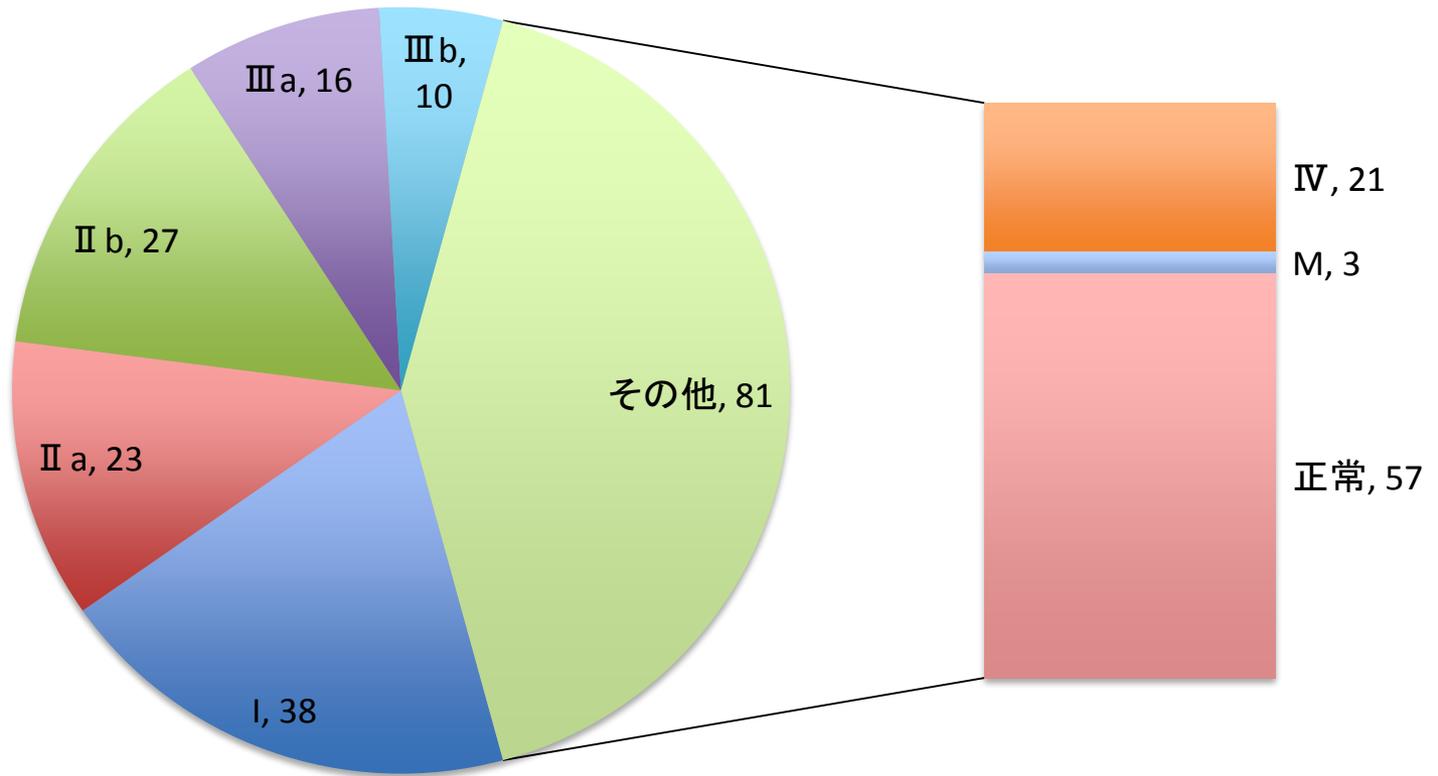
搬送元



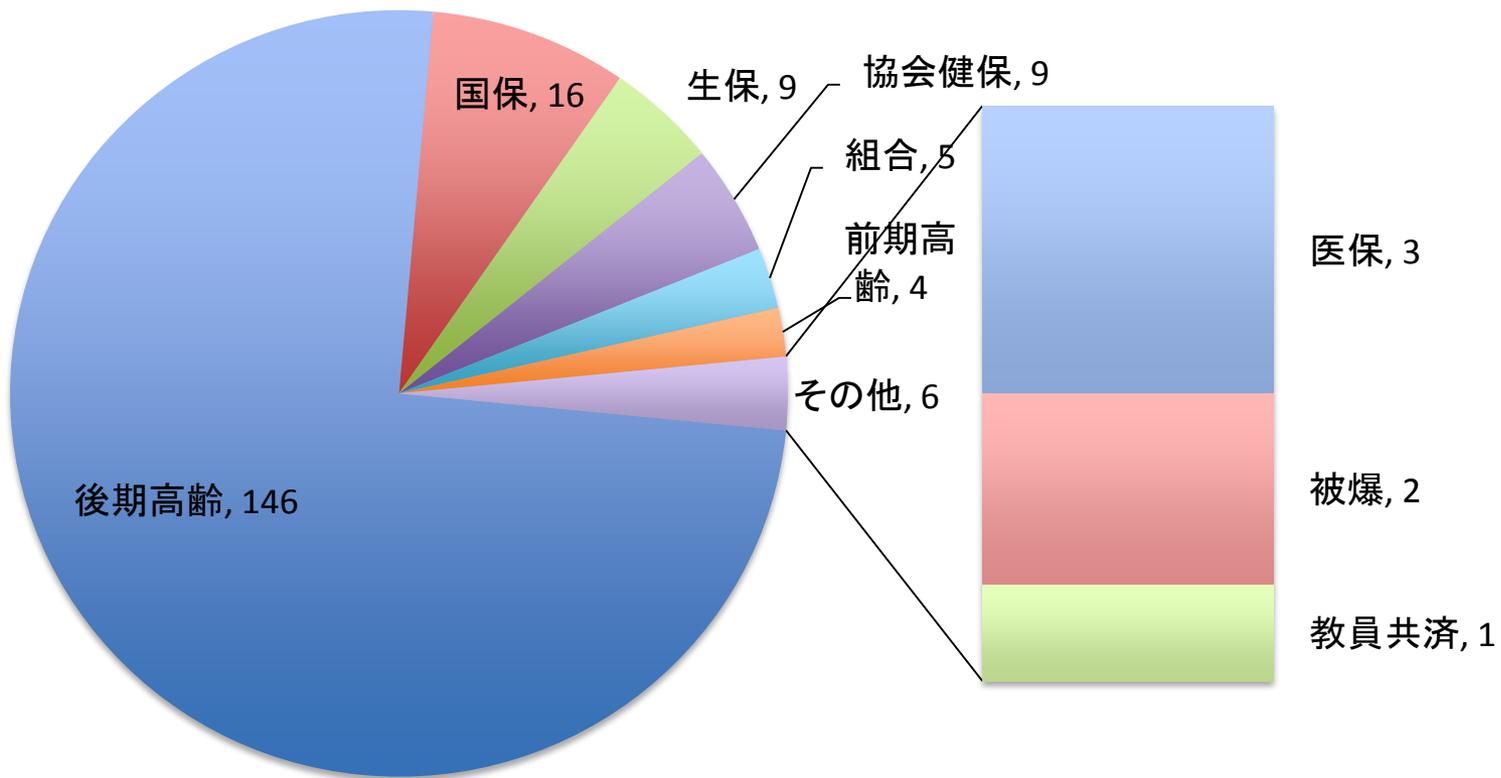
高齢者施設内訳



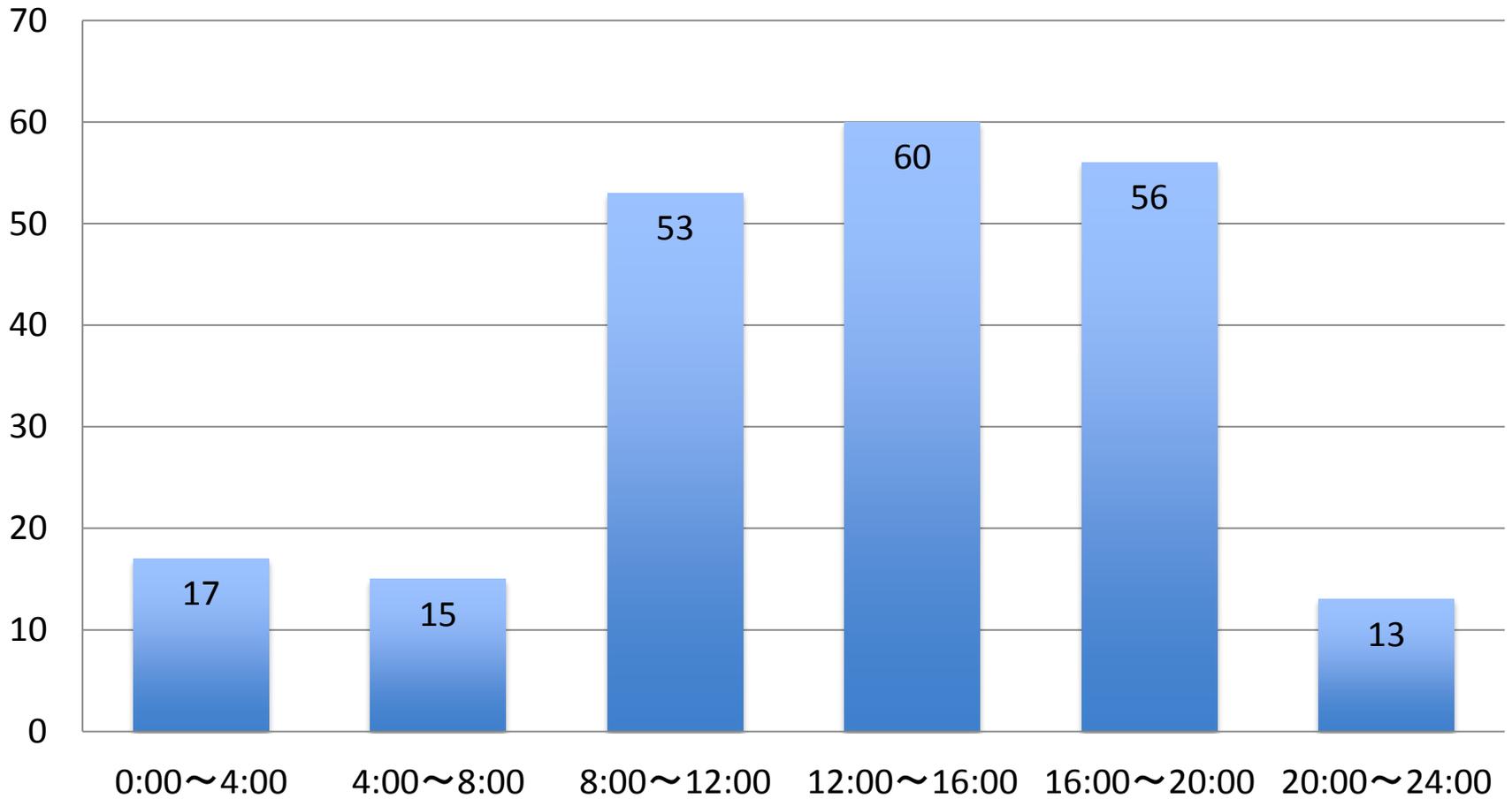
認知機能



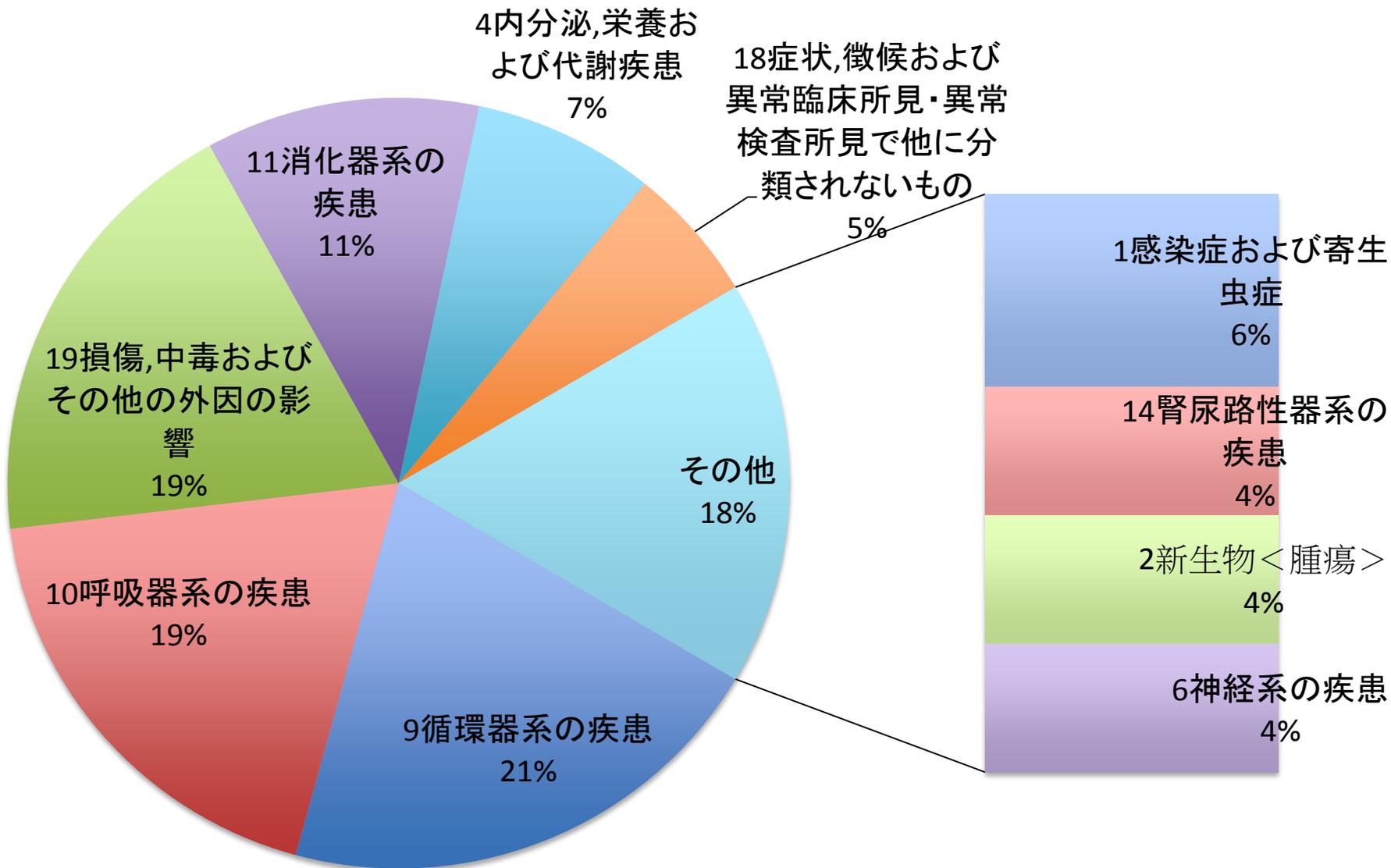
保険種別



搬入時刻

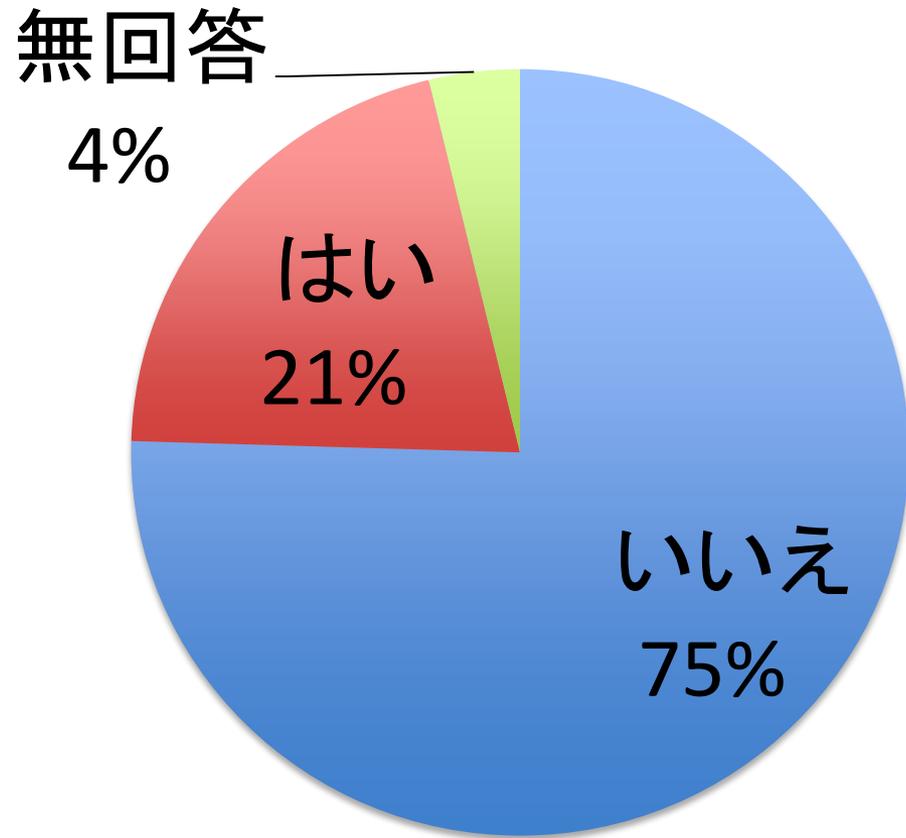


疾患分類

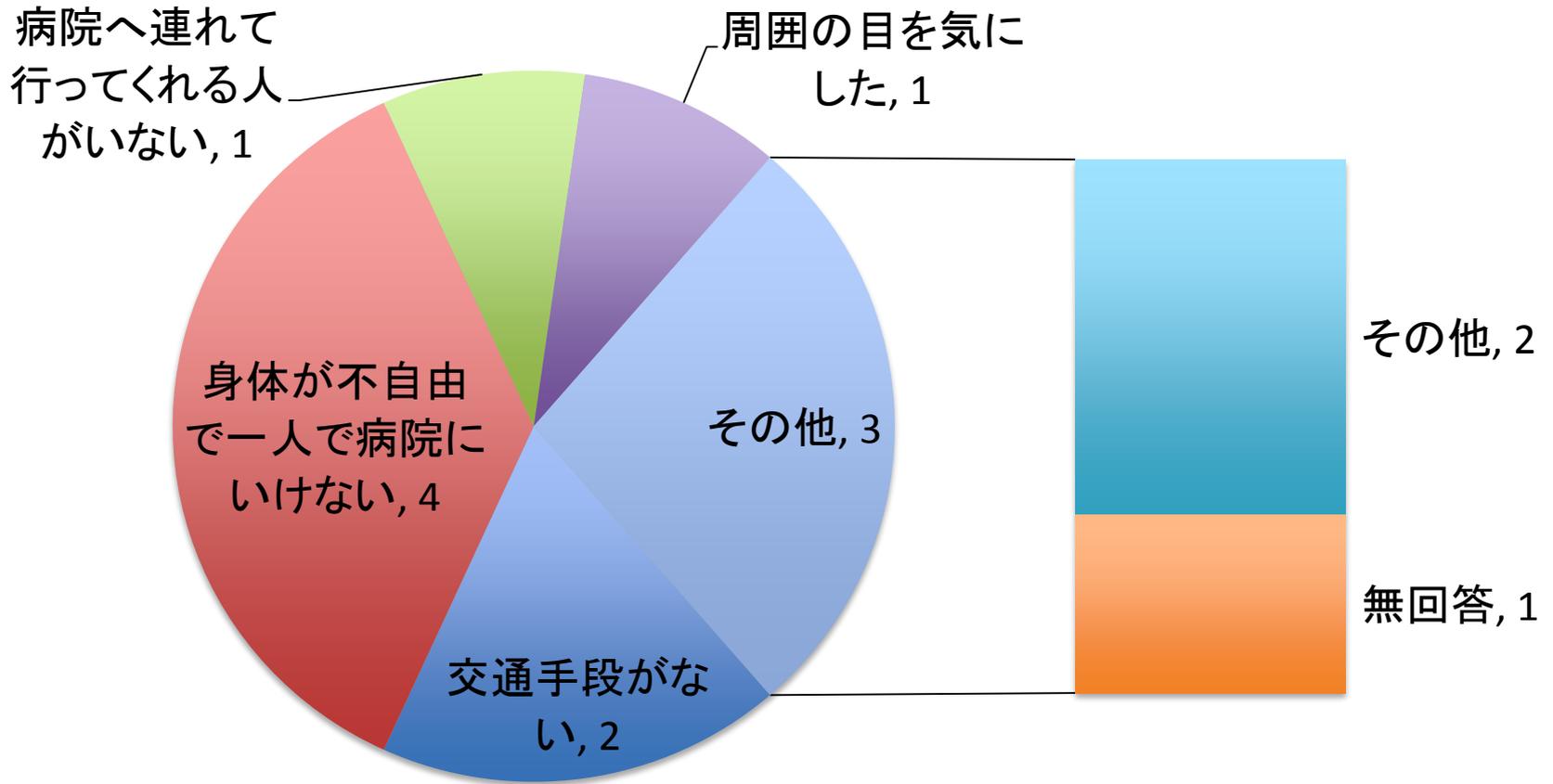


アンケート回収分

我慢していたか？

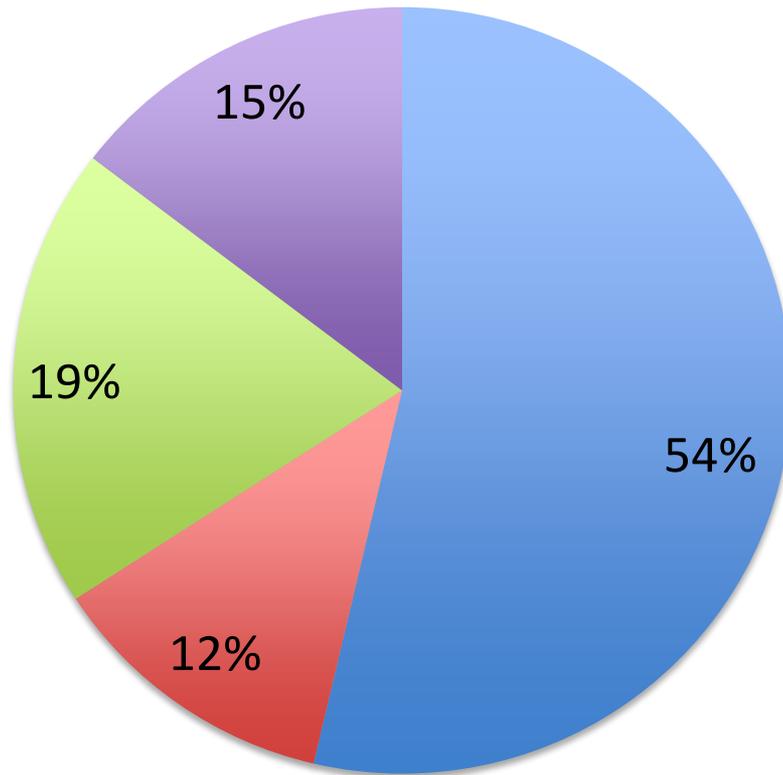


我慢した理由 はい



我慢した理由

いいえ



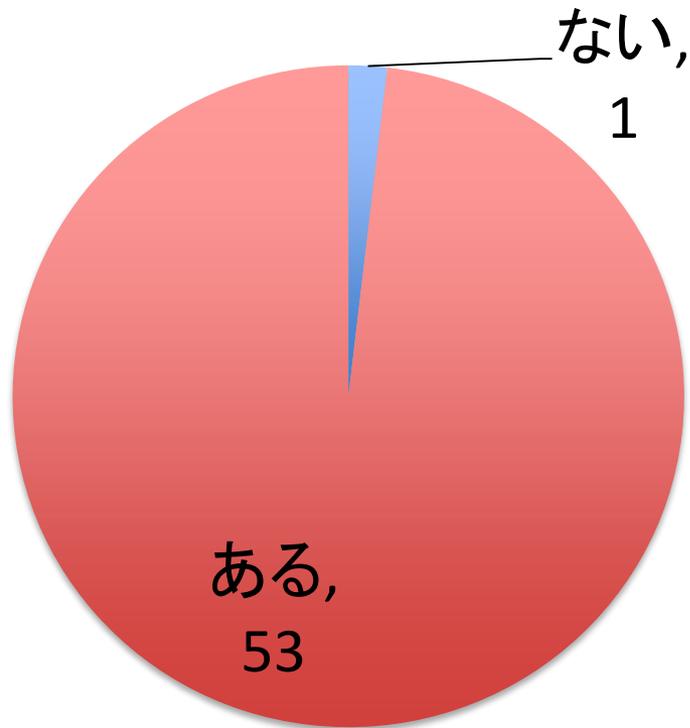
■ ①突発的な発症・受傷
（事故など）

■ ②自身の健康状態の
変化に気づいていた
が、病院へ行くほどで
はないと思った

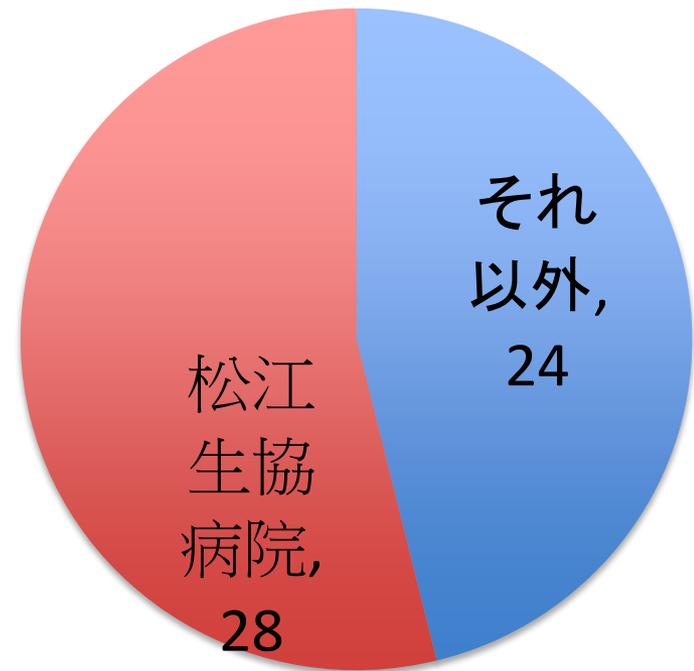
■ ③自身の健康状態の
変化には気づいていな
かった

かかりつけ医療機関

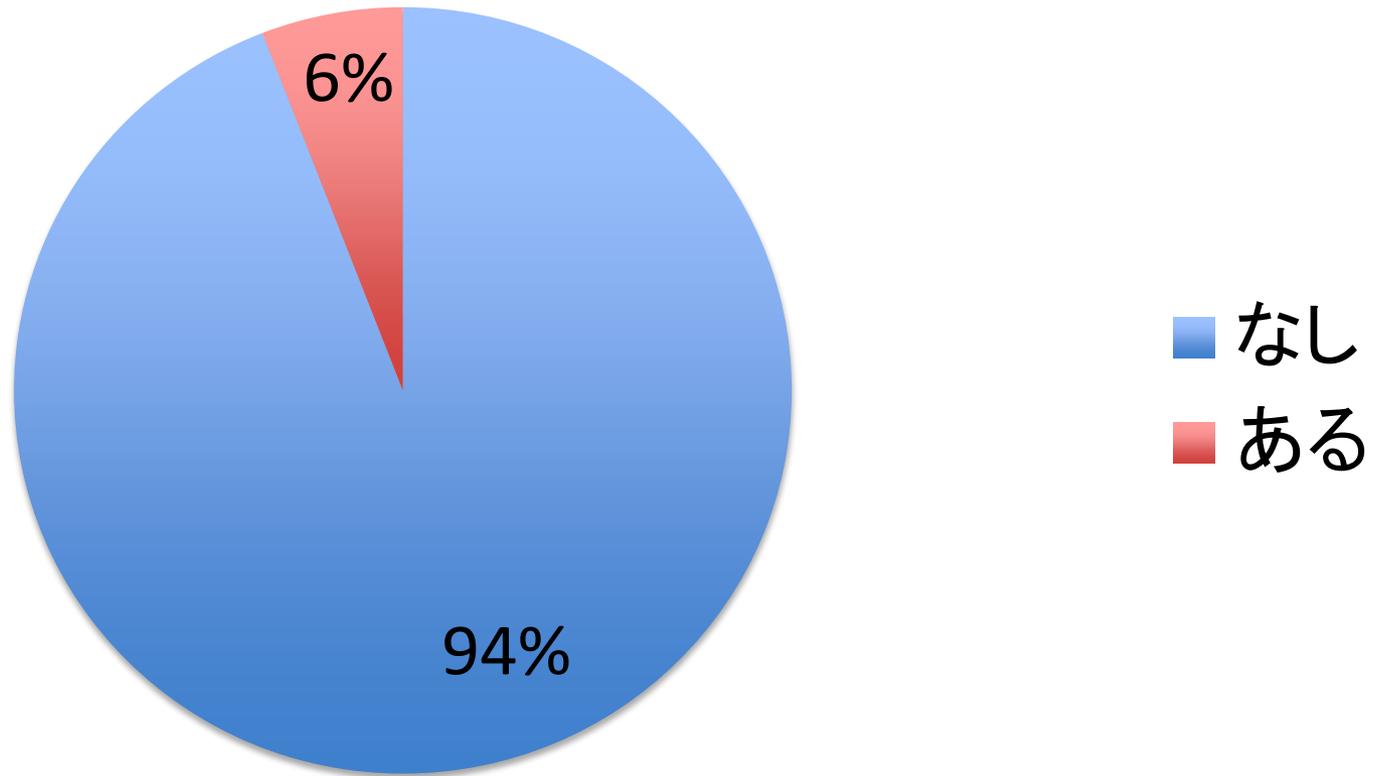
有無



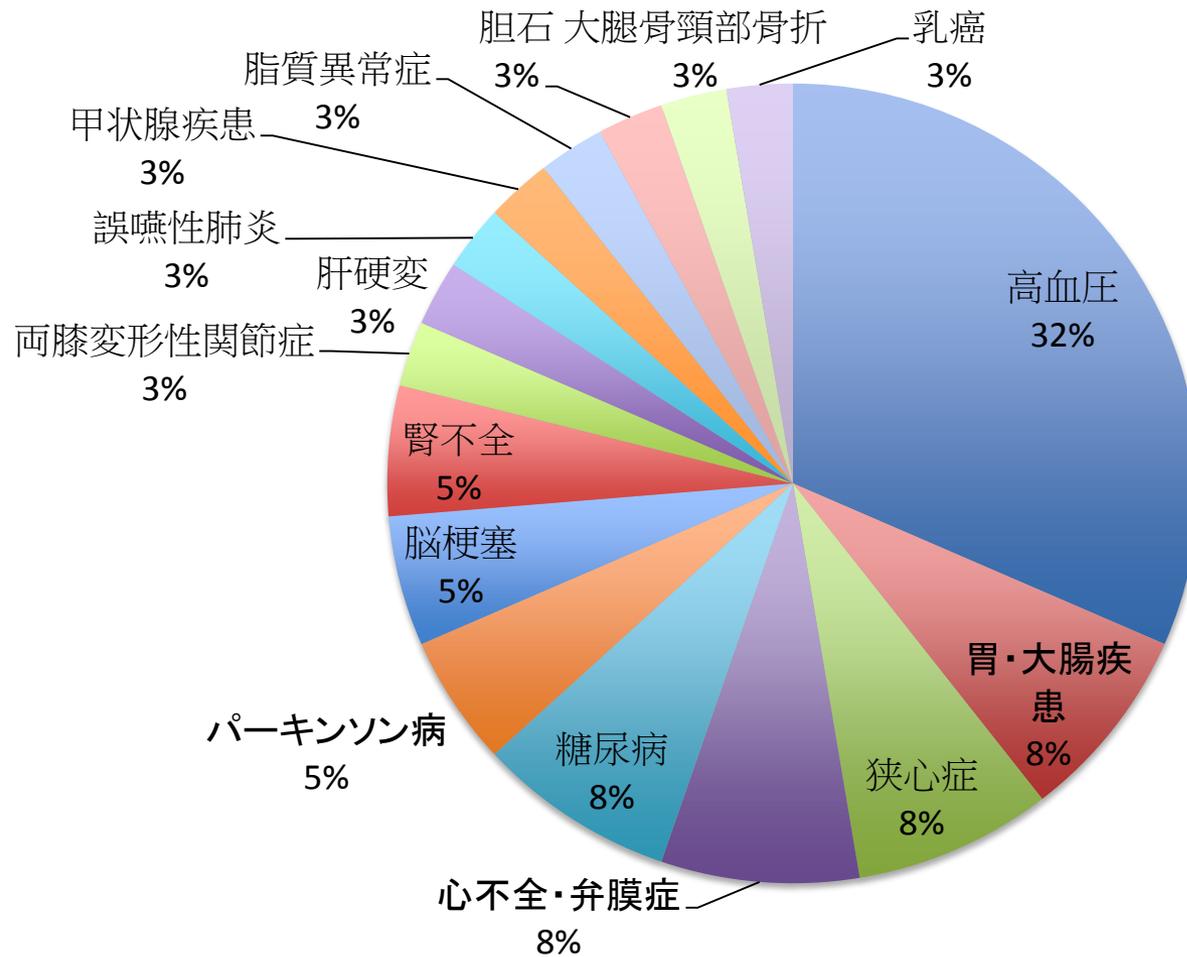
「ある」と回答した人



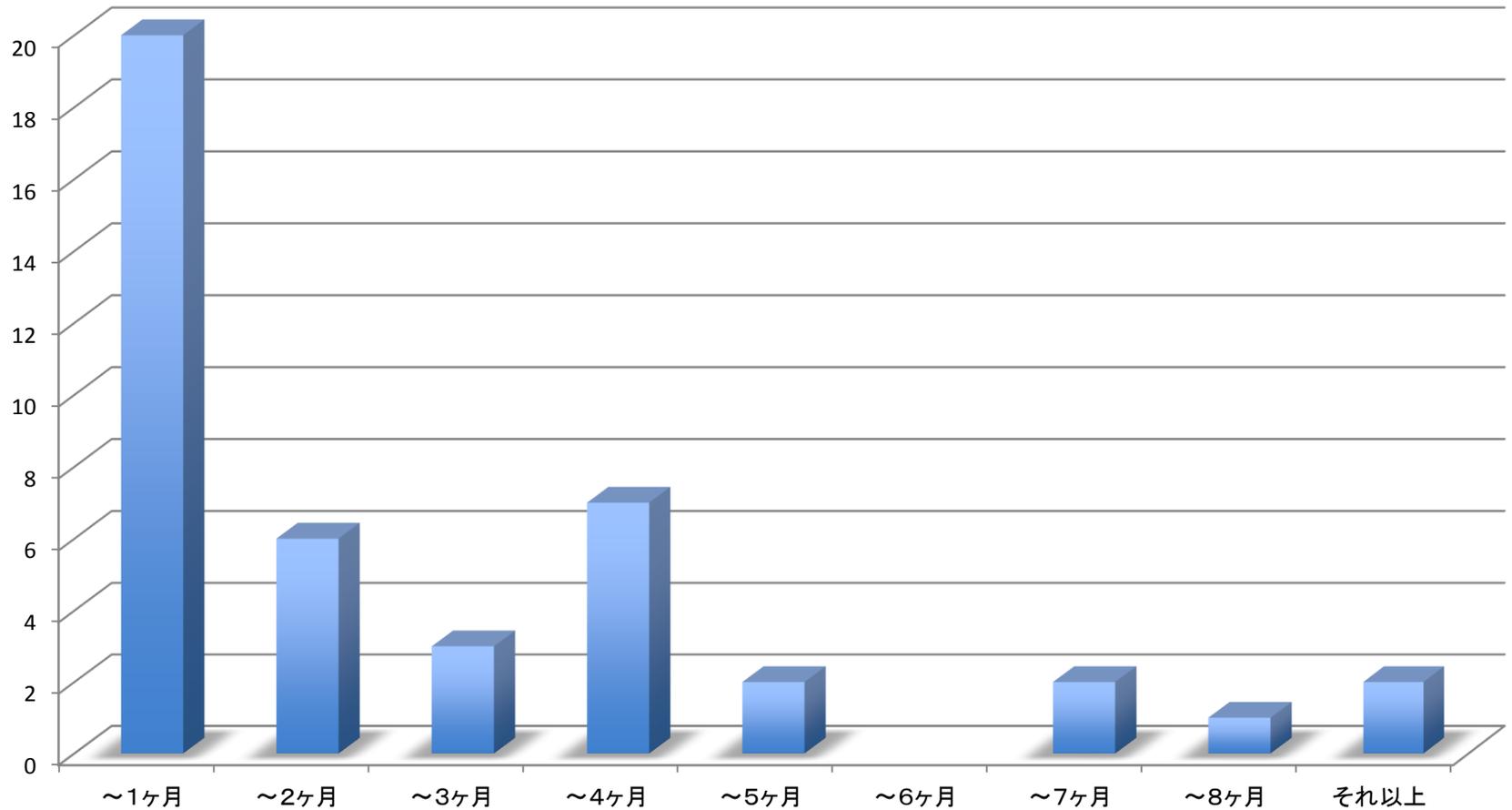
治療中断歴



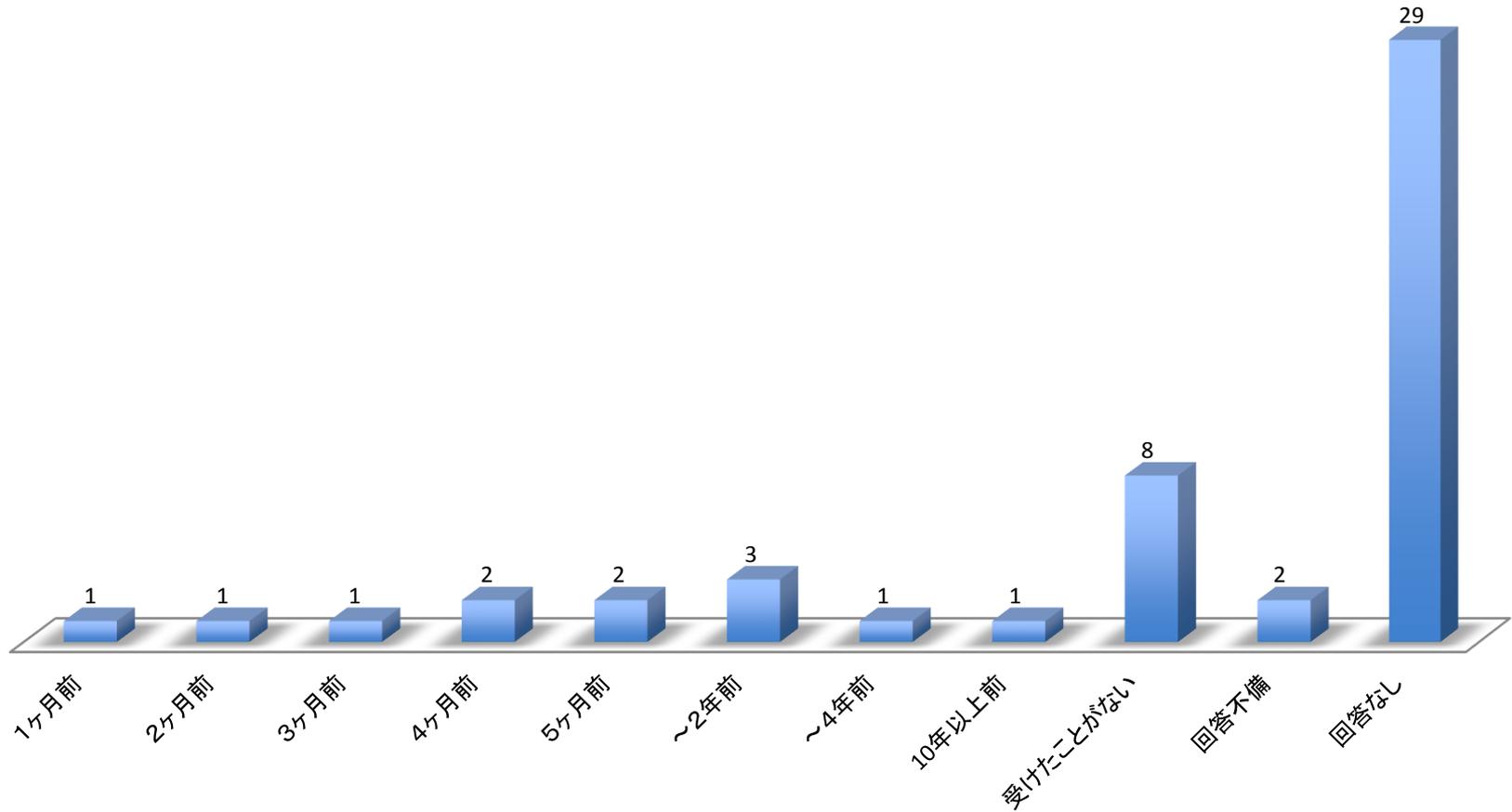
かかりつけ疾患



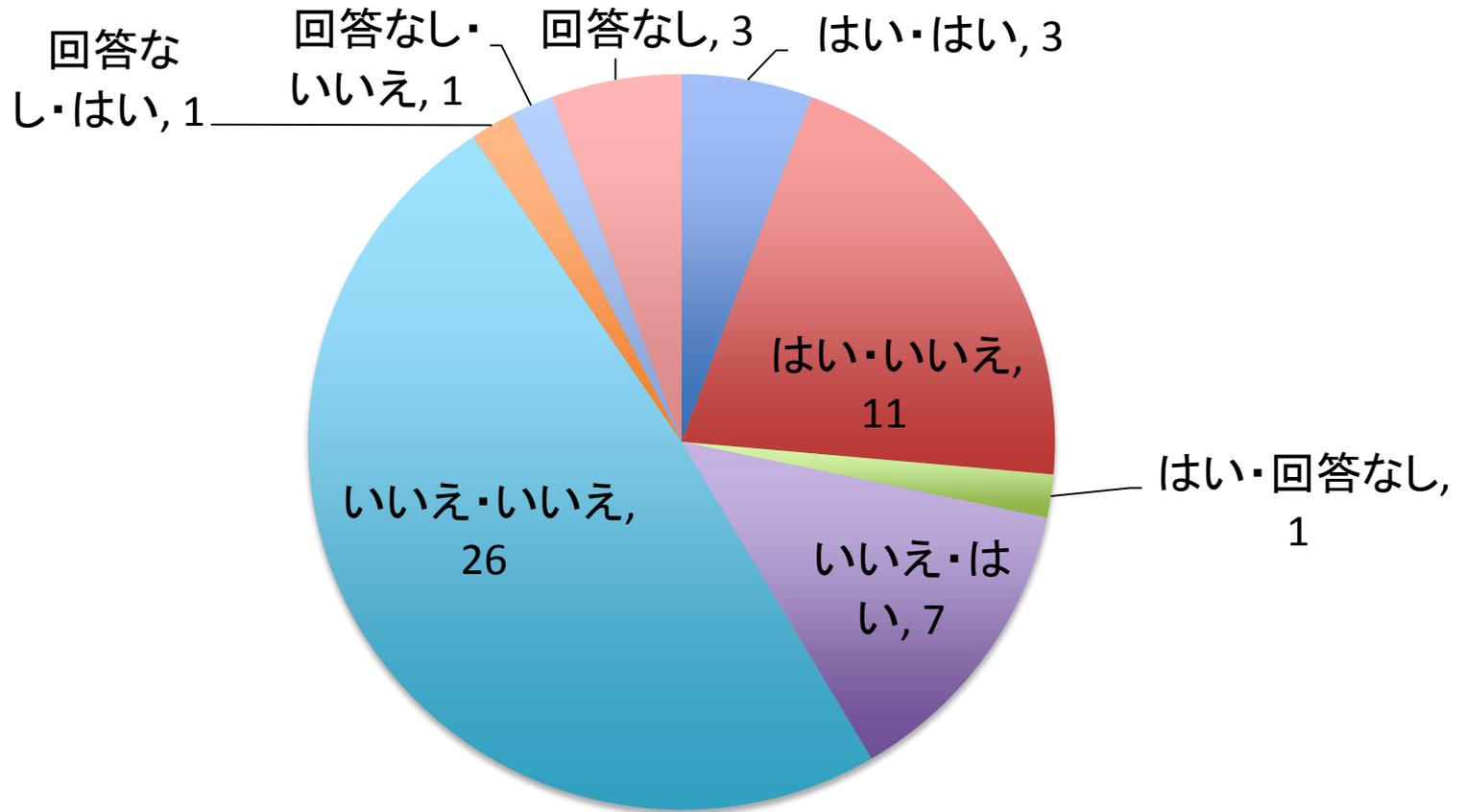
最終受診時期から救急搬入まで



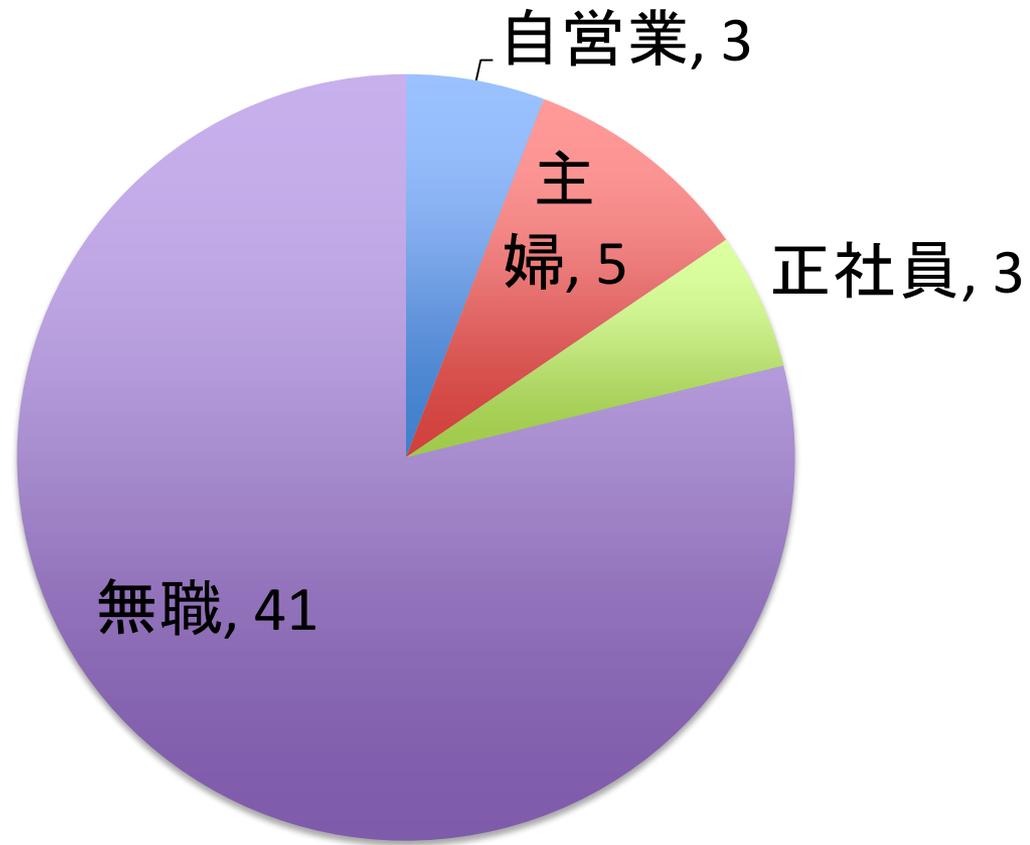
健診を受けた時期



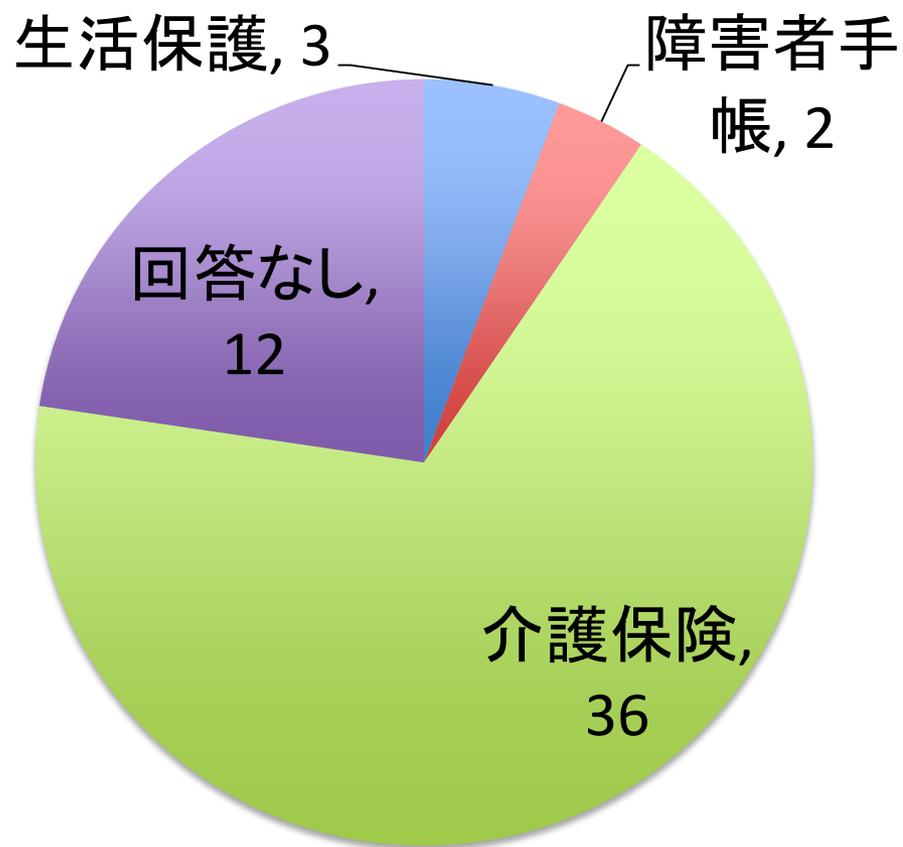
歯の状態・歯の治療歴



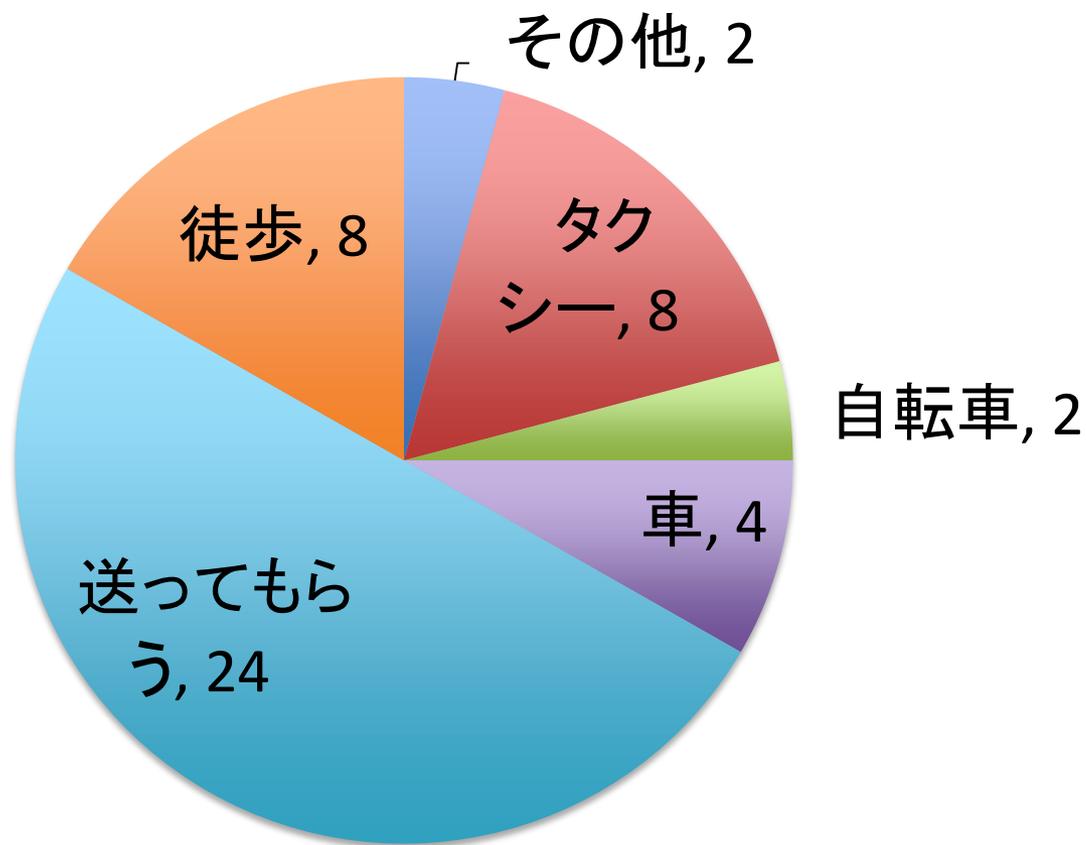
職業



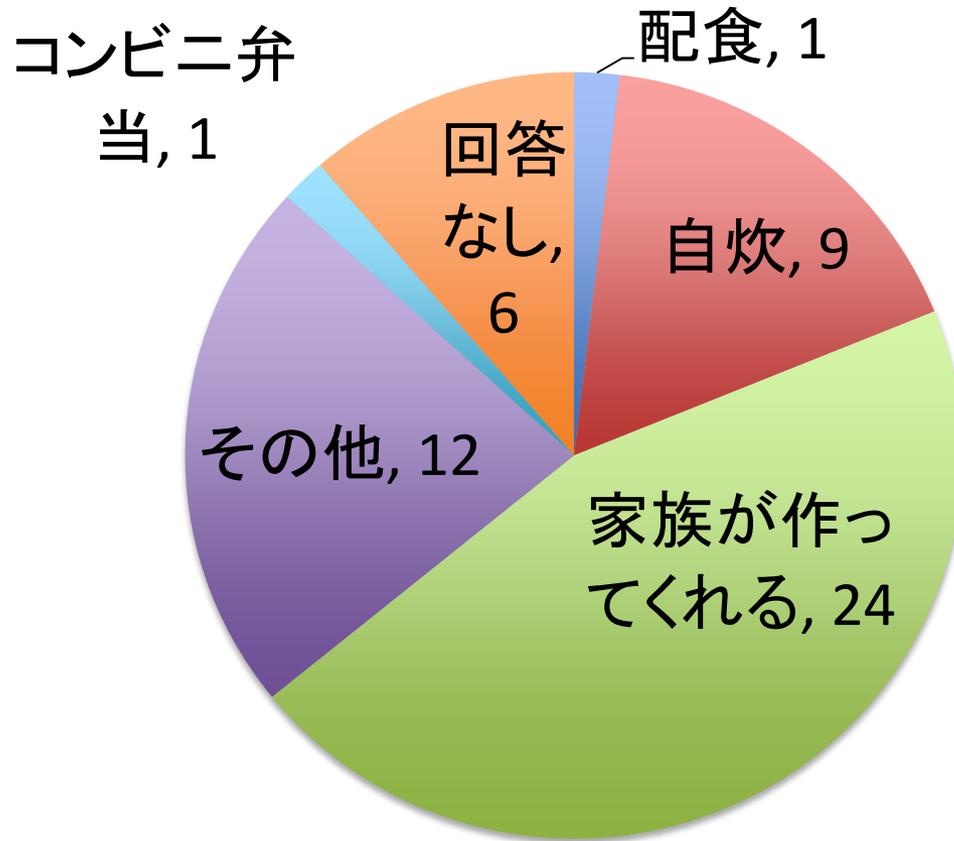
利用している行政サービス



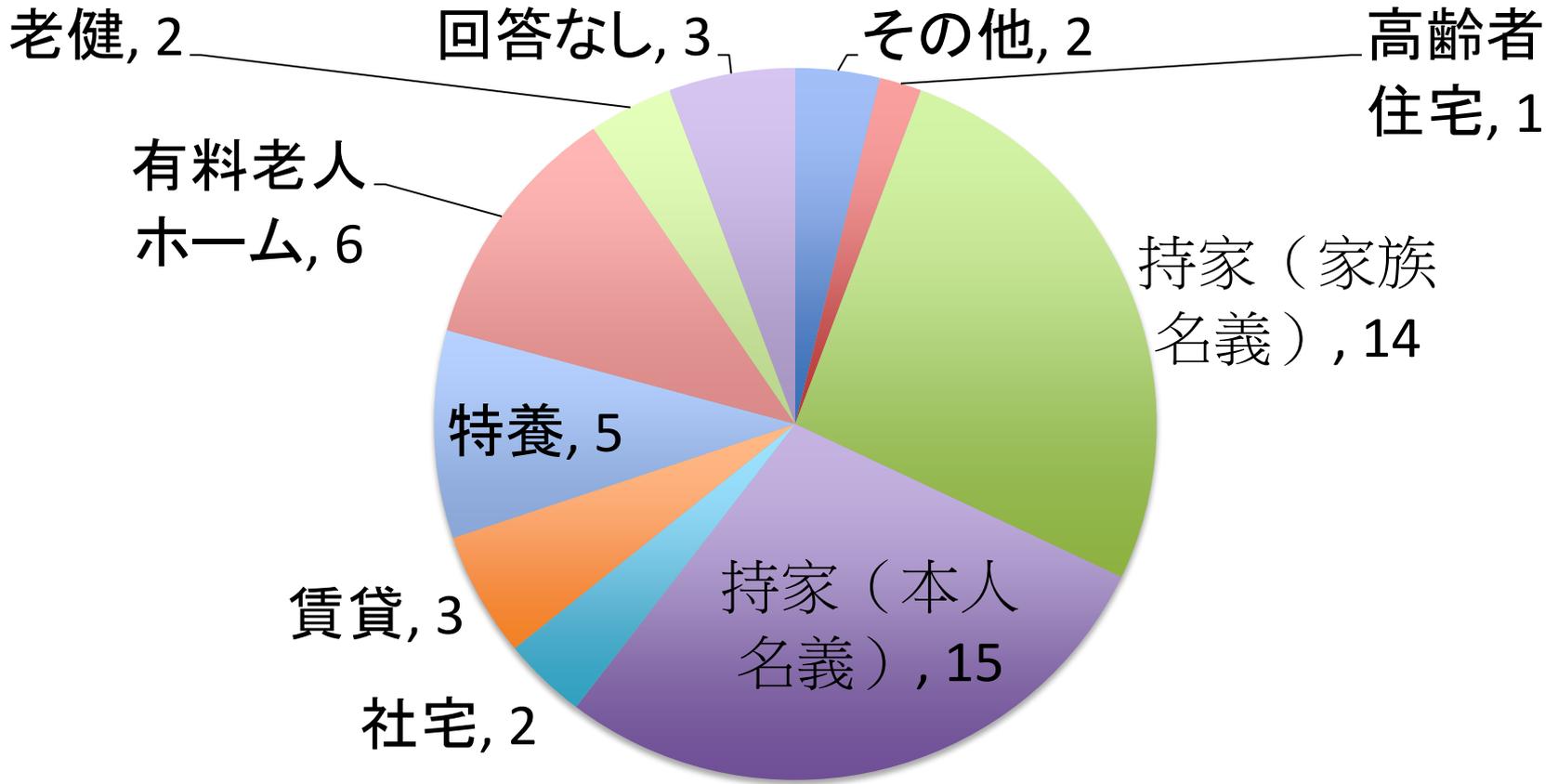
交通手段



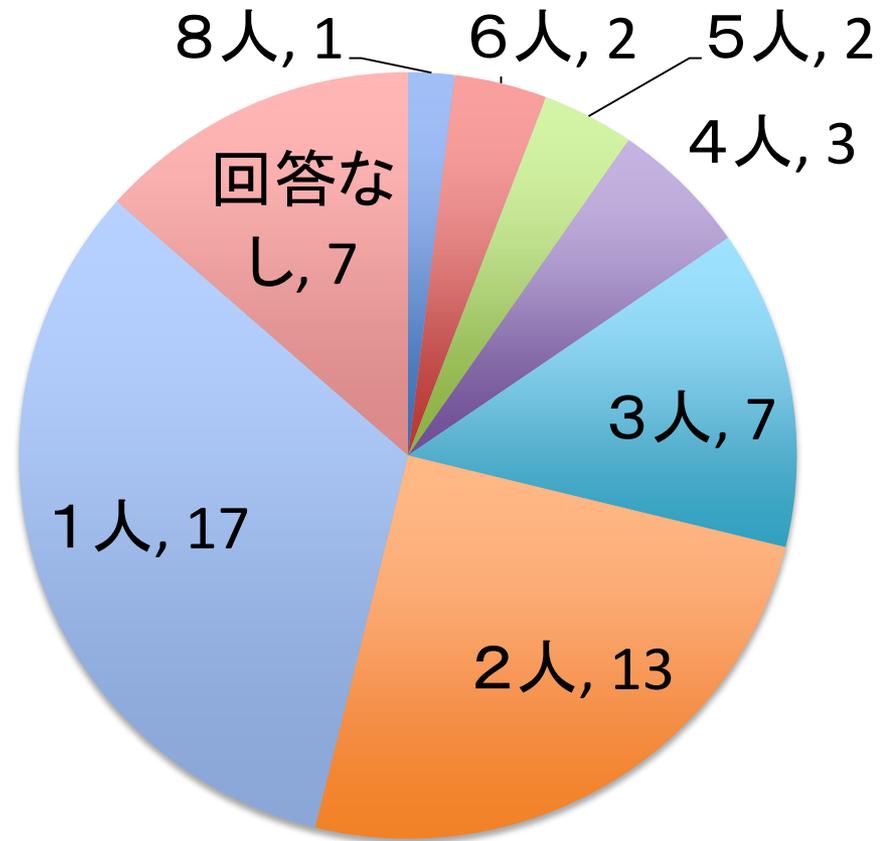
食事



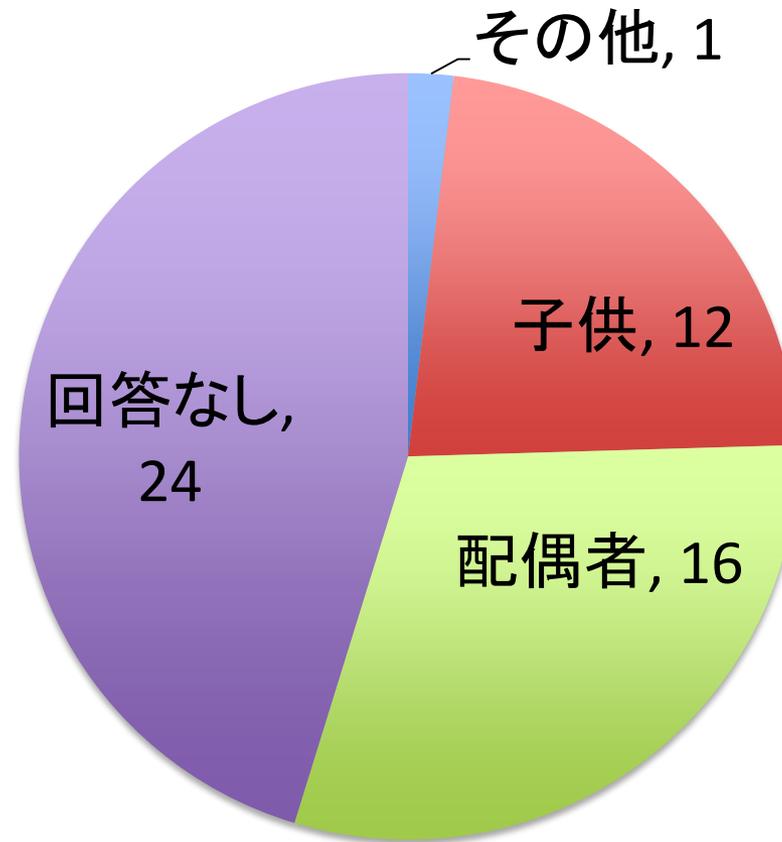
住まい



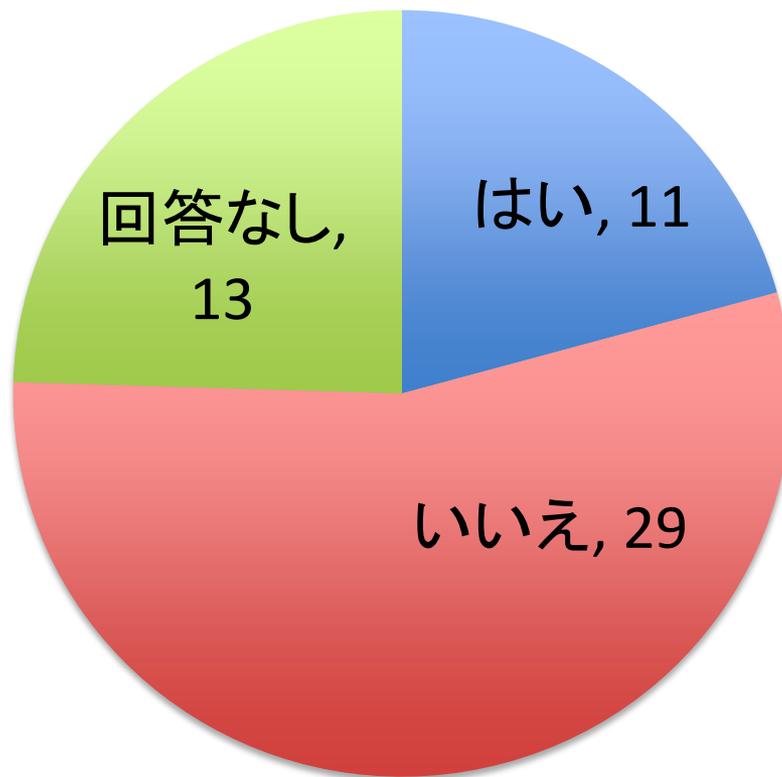
世帯人数



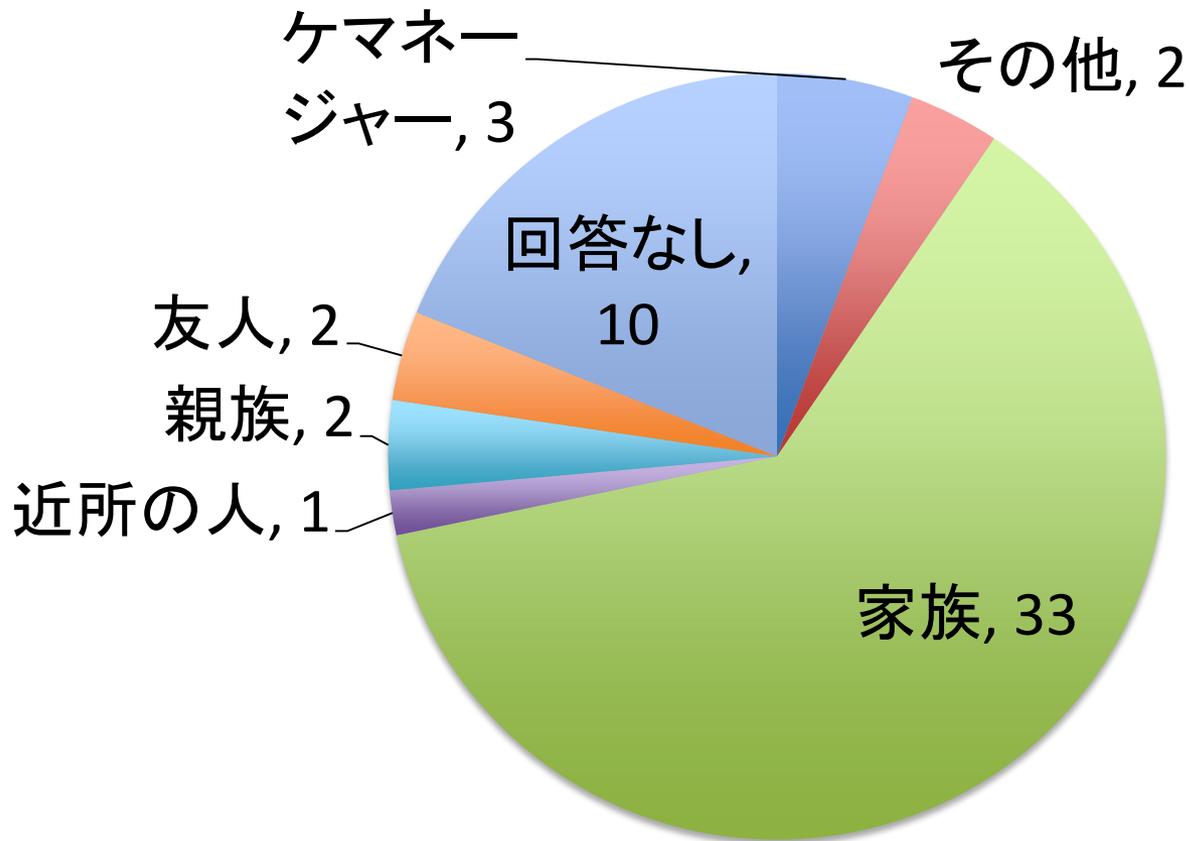
誰と暮らしているか？



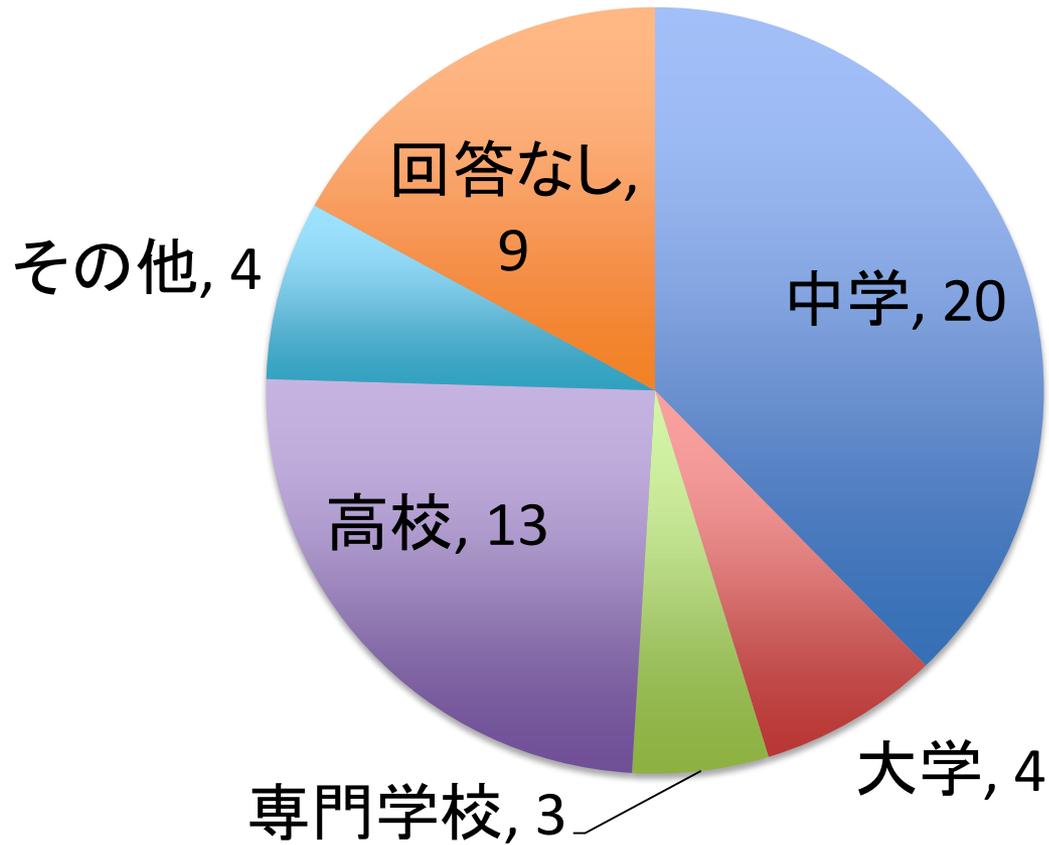
町内会の集まりや趣味の サークルに参加していますか？



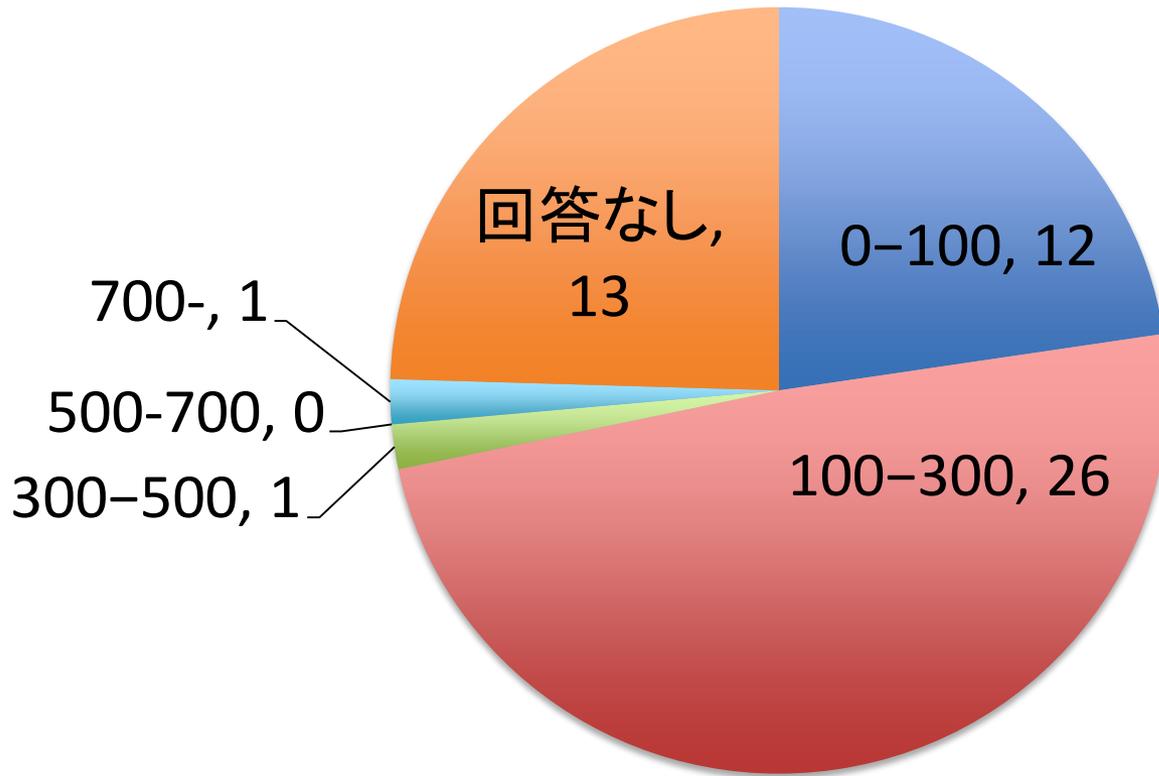
困ったときに 助けしてくれる人



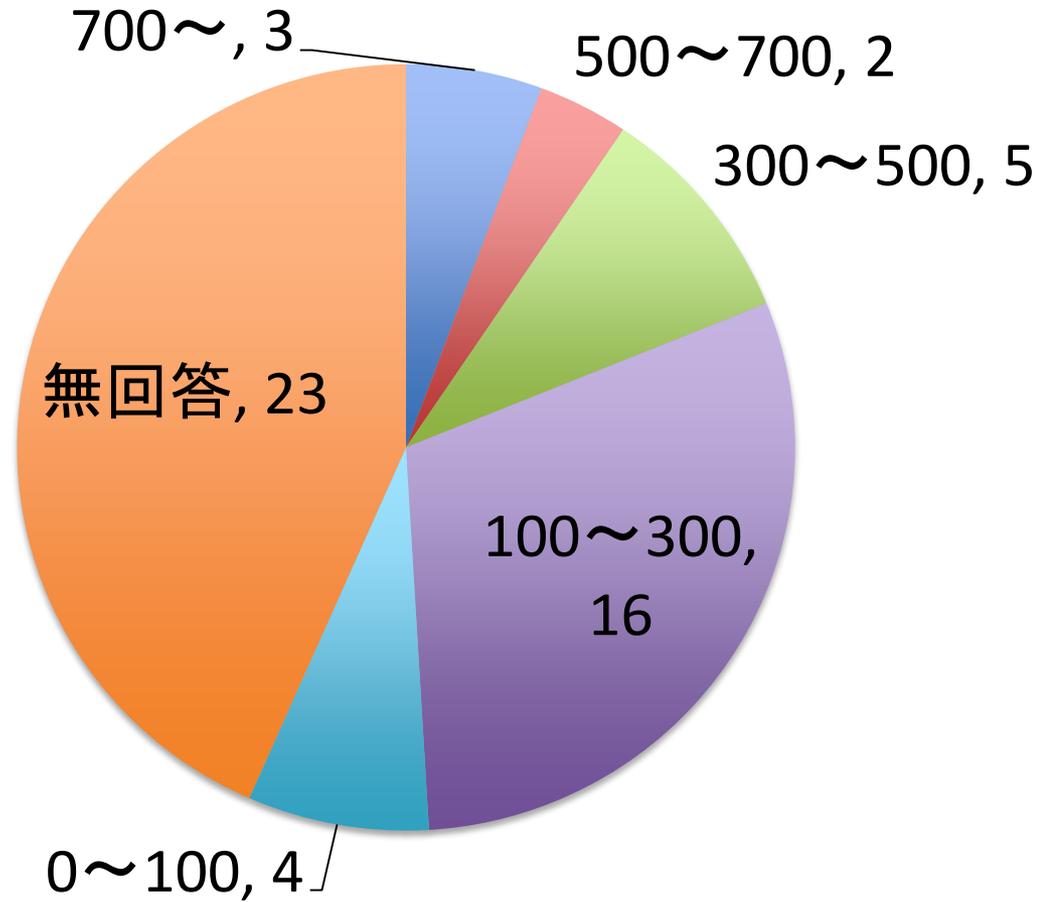
最終学歴



本人所得



世帯所得



考察

- 5人に1人救急要請を我慢
- 我慢していた理由が交通手段関連
- 地域のコミュニティーへの参加率の低さ

→物理的孤立・社会的孤立を緩和したい

対策・課題

- バスやタクシー、運転免許証返還制度
- 労働人口減少
 - 市役所に報告書を提出して状況変わる？
- 核家族化
- 島根県民の人間性・性格
 - 家族との会話を増やす必要性

まとめ

- アンケートの回収率の低さ
- 金銭面が受診抑制の大きな原因なのではと予想していたが、社会的孤立が最大の原因
- 若い人が永住する島根県になってほしい

謝辞

- 助成金を出してくださったプロジェクトS
- 協力してくださった松江生協病院の方々
- アンケートに回答してくださった患者の皆様

に厚く御礼申し上げます